

## 経常収支の赤字化は避けられないのか

財務省が発表した1月の貿易統計によると、輸出は5兆2,529億円、輸入は8兆429億円で、過去最大の貿易赤字となった。輸出は自動車や有機化合物、鉱物性燃料などが寄与し前年同月比9.5%増と11カ月連続で増加した。しかし、輸入は原油や液化天然ガス、半導体等電子部品が大幅に増加したことで、同25.0%増と過去最大の輸入額となった。輸入急増の背景には輸入数量自体が同8.0%増加していることに加えて、為替レートが同20.2%の円安となったことがあげられる。

地域別にみると、対米国では輸出1兆236億円(同21.9%増)、輸入6,564億円(同25.9%増)、対EUでは輸出6,111億円(同20.2%増)、輸入6,997億円(同20.2%増)、対アジアでは輸出2兆7,027億円(同5.8%増)、輸入3兆6,691億円(同27.2%増)、うち対中国では輸出8,626億円(同13.1%増)、輸入1兆9,074億円(同34.4%増)となっている。米国を除くいずれの地域に対しても貿易赤字であり、特にアジアや中国に対しては過去最大の赤字額であった。

日本の貿易総額は2000年代以降、リーマン・ショック後を除きほぼ一貫して増加しており2013年は144兆円にのぼる。しかし、貿易収支は2011年以降3年連続赤字である。他方、海外への投資収益である所得収支は黒字の拡大を続けている。そのため、現在の経常収支は過去に行った海外投資に支えられている状況といえ、直近では3カ月連続で赤字が続いている。

経常収支が赤字になるということは、日本が海外に支払う資金がふくらみ、それだけ日本全体での資金繰りが窮屈になることを意味する。当面は外貨準備の取り崩しでしのぐことはできても、それが難しくなるだろうと海外から思われた瞬間に、為替市場や株式市場、国債市場が混乱し、実態経済にも悪影響が及ぶことになる。

ESPフォーキャスト調査では、日本のエコノミストの大半が数年以内に貿易収支が黒字に転換することはないと考えている。中長期的に経常収支が赤字化することは避けられない状況である。基本的に経常収支は国内の貯蓄動向に依存するが、経常収支を黒字化するためには少子高齢化が進むなかでの家計貯蓄率低下を抑制するとともに、政府の財政赤字を削減することが正面からの対策といえる。高齢者人口の増加を前提とするなかでは、現役世代の所得増加を図ることで家計貯蓄率の低下を抑える、また財政赤字の削減に向けてまずは基礎的財政収支(プライマリーバランス)の黒字化を達成することが重要である。いずれも、景気の回復が最大の処方箋であることは言うまでもないだろう。

(撞球者)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## 「いま始める事業承継」最終回

最終回 事業承継を成功させるためのコツ (まとめ)

これまで事業承継の成功のコツをお話してきましたが、まとめると、  
「社長と後継者が二人三脚で経営に取り組む」  
これに尽きるのではないかと思います。

実際に承継を経験した経営者の方からは、日頃から  
「継ぎたいと思ってもらえる良い会社にすること」  
「常に承継を意識して経営を行うこと」  
を心がけ、そのうえで来るべき時期に備えて、  
「相手を信頼して大胆に任せられる大らかさが重要」  
「後継者自身が社長としての役割を担えるまで、共に行動して見守り、  
そして手放していく」そういった姿勢の必要性を伺いました。

帝国データバンクの「事業承継に関する企業の意識調査」では、  
企業の8割超が事業承継を経営問題と認識しています。  
一方で、6割超の企業が事業承継への取り組みなしという結果が出て  
おり、中小企業の事業承継対策は今後も避けて通れない課題です。

TDB REPORT や本コラムでは、中小企業や支援機関への取材をもとに  
事業承継を成功させるためのコツをご紹介してきましたが、  
今後、少しでも貴社の円滑な事業承継の参考にして頂ければ幸いです。

(おわり)

---

今コラムの詳細は TDB REPORT122 号をご覧ください。  
～企業事例が豊富につまった事業承継のテキストです～  
<http://www.tdb.co.jp/lineup/publish/tdbrep122.html>

TDB REPORT 編集制作チーム (問い合わせ先: 03-5775-3163)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。